

〈第4回 住民説明会に関する意見書へのご回答〉

項目	ご意見・ご質問	ご回答
事業継続性と技術革新への懸念について	現在の最新技術が30年間にわたり通用し続けることは不可能ではないか。ペロブスカイト太陽電池などの新技術が登場する中、周辺環境の変化にどう対応するのか。	ご指摘の通り、30年という長期間では技術の陳腐化は避けられません。弊社では現時点での最適技術を採用しつつ、ペロブスカイト太陽電池等の次世代技術が実用化され、交換コストを上回る収益性が見込める場合には、最新設備への更新（リプレース）を柔軟に検討する計画です。固定的な運用に固執せず、技術革新を事業価値向上の機会と捉え、長期的な経営の安定性を確保してまいります。
地政学リスクについて	中国による日本への輸出規制が行われている現状で、太陽光パネルの確保はできているのか（購入済みか）。	現在の国際情勢、特に中国による輸出規制等の地政学リスクについては深く認識しております。本事業における主要資材の調達については、既に供給ルートの確保および契約の最適化を進めており、事業開始に支障がないよう準備を整えております。
廃棄物処理費用と経営の成立性について	廃棄物処理費用の積立に20年かけるのは長すぎるのではないか。技術革新による設備更新の可能性を想定し、より短期間で積み立てるべきではないか。	法令に基づく10年目からの積立計画に加え、弊社の自主的な取り組みとして初年度から積立を開始し、不測の事態や将来の設備更新に備える方針です。また、太陽光パネルは一般的な電化製品とは異なり、長期的な製品保証が付帯する資産であるため、現時点では保証期間内における新技術製品への置き換えは想定しておりません。ただし、新技術への刷新を否定するものではなく、将来的な市場環境や技術動向を注視し、その時点の最適解を柔軟に検討してまいります。
	以上のリスクや変化を踏まえた上で、経営として本当に成立するのか。	本事業は、30年という超長期のリスクを織り込んだ多角的なシミュレーションに基づき、経営の成立性を確認しております。具体的には、長期間の相対契約による売電収入の安定性、各種保険、長期製品保証を軸とした安定運用を計画しています。
外部専門家の活用推奨について	事業の成立性に対し、第三者的立場のコンサルタントに意見を求めることを強く推奨する。	事業に関する技術的評価・リスク評価等においては第三者コンサルタント、金融機関ならびに保険会社からの意見・評価をいただいたうえで事業計画を策定しております。
重なる不備への不信感について	書類のチェック体制が非常に甘い。重要な事項の記載漏れや、回答書等の誤字脱字に対するチェック体制はどうなっているのか。	これまでの書類において、責任者の記載漏れや誤字脱字、記述の不整合が発生し、多大なご不安と不信感を与えてしまいました。3名体制で確認を行っていたにもかかわらず、このような初歩的かつ重大なミスを防げなかったことを深く反省しております。今後は内部による確認に加え、法務・広報部門等の客観的な視点を持つ外部専門家を交えた、より厳格なチェック工程を導入いたします。
	〇〇の案件に関し、資料では資金協力を「実施」としながら、回答書では「予定」とするなど、記述に一貫性がないのではないか。	表記の不整合により、混乱を招いたことを深くお詫び申し上げます。本件は、地域コミュニティへの支援方針自体は確定しておりますが、詳細な送金時期や項目の確定を待つ段階で表現が混在してしまいました。今後は事実関係に基づく厳格な用語管理を徹底し、資料間の整合性を保つことで、正確かつ透明性の高い情報発信に努めてまいります。

環境リスクと防災上の懸念について	産業廃棄物処理場で火災が多く発生しており、大量廃棄が予想される太陽光パネルを増やしていく必要性はあるのか。環境面に訴求したいのであれば、ゴミ問題や火災による有害物質発生についても考慮する必要があるのではないか。	私共が本発電事業を推進する意義は、単なるエネルギー供給にとどまらず、地域のエネルギー自給率向上と脱炭素社会の実現に寄与することにあります。 ご指摘いただいた「ゴミ問題」や廃棄プロセスにおける環境負荷を軽視しては、真の環境貢献とは言えません。 弊社は「製品の導入から最終的な廃棄・リサイクルまでを一貫して管理すること」こそが事業者の責務であると深く認識しております。 今後、社会的に普及が進む太陽光パネルのリサイクル技術を積極的に採用し、有害物質の流出防止と資源の有効活用に努めることで、未来に負担を残さないクリーンな事業運営を徹底してまいります。
	現段階で廃棄パネルが埋め立て処分しかなければ、環境負荷の観点から断固反対である。	現在の事業計画上の試算では、保守的に埋め立て処分費用を計上しておりますが、第4回説明会でも申し上げた通り、北海道内においても直近で2か所の太陽光パネルリサイクル施設が稼働を開始しております。弊社といたしましては、こうした社会的なリサイクル体制の広がりを基軸に据え、単なる廃棄・埋め立てではなく、リサイクルによる再資源化を前提として本事業を推進してまいります。
景観について	お墓側側その周辺住宅地から丸見えになることに対して対策ができないのであれば適切な場所ではないと考える。	ご指摘の通り、お墓や側側は本事業用地よりも高い位置に所在しており、パネルを完全に視界から遮断するためには、極めて高層の遮蔽物を設置せざるを得ないのが実情です。しかしながら、そのような巨大な遮蔽物は、かえって日照障害や別の圧迫感を生んでしまうという新たな課題も抱えております。 見える範囲すべてのパネルを撤去することは、事業の継続性に甚大な影響を及ぼすため困難ではございますが、地域の皆様に少しでもご納得いただけるよう、部分的な配置の見直しや代替案について、引き続き対話の場を設けさせていただきたいと考えております。
事業採算性について	防眩フェンスによる影で発電量が減るのであれば、事業採算性に影響が出るのではないかと。	防眩フェンスの高さは2mに設定しており、フェンスとパネルの間には4mの管理用道路を確保いたします。この配置により、フェンスの影は主に管理用道路やパネルの下部（架台部分）に落ちる設計となっており、パネル本体の受光面への影響を最小限に抑えています。 日照角度が低くなる冬季の早朝など、極めて限られた時間帯において一部影が掛かる可能性は否定できませんが、年間を通じた事業採算性への影響は軽微であると試算しております。防眩対策と発電効率の両立を図ることで、近隣への配慮と事業の安定性を同時に実現してまいります。
配布資料以外について	調査に携わった専門家公表の進捗状況を教えてほしい。	個別相談会にて公表の検討をお伝えしておりましたが、慎重に検討を重ねた結果、専門家個人のプライバシー保護および安全確保、ならびに中立的な研究活動への影響を考慮し、氏名の公表は控えさせていただくこととなりました。ご期待に沿えず深くお詫び申し上げます。
	災害時の避難場所（スケートリンク側）確保のため、パネルを10m下げる、または面積を縮小して避難場所を設けられないか。	第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。

第3回答書について	<p>湿地帯掘削による影響を最小限に抑える具体的・実効性の高い計画を、市民に分かる形で提示してほしい。</p>	<p>切土・盛土範囲の精査を行い、掘削量の最小化を図るべく計画を修正いたしました。切土・盛土範囲について第5回住民説明会においてご説明させていただきます。</p>
	<p>「自然資本を損なわない」とする根拠の具体的説明と、貴社の「自然資本」に対する認識の提示をしてほしい。</p>	<p>自然資本とは、植物、動物、水、土壌など、人々に恩恵をもたらす自然のストックを指します。私共はこれらを単なる風景ではなく、地域の持続可能性を支える基盤であると認識しております。</p> <p>本事業では、大規模な地形改変を避け、既存の自然環境への負荷を最小限に抑える設計をしております。</p>
	<p>国益のために市民の生活や誇りを犠牲にしても良いと考えているのか。全体主義的な事業運営に対する明確な回答。</p>	<p>私共は、一部の方々の犠牲の上に成り立つ国益を正当と考えてはおりません。[REDACTED]が掲げる「次世代への公益」には、根室の豊かな自然や皆様が築いてきた日常を次世代に継承することも含まれています。本事業は一方的な強要ではなく、地域の声に真摯に向き合い、環境への影響を最小限に抑える計画変更等を通じて、地域と共に歩む姿を目指します。皆様を尊重し、信頼いただける対話を継続してまいり所存でございます。</p> <p>なお、お寄せいただいたご意見・ご質問につきまして、原文のままの掲載を希望されておりましたが、過激な表現が含まれる箇所を趣旨が損なわれない範囲で要約いたしました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。</p>
	<p>漁業振興（養殖事業）など、エネルギー政策以外で地域産業に貢献し国益に繋がる事業への軌道修正は考えられないか。</p>	<p>食料自給率の向上もまた、エネルギー自給と同様に国家の根幹を支える重要な課題であるとともに、根室市における主要産業であることも認識しております。</p> <p>しかしながら、当社はエネルギー事業に特化した専門企業であり、養殖業をはじめとする漁業関連事業への知見を有しておりません。現時点で、専門外である異業種への事業転換や直接参画を行う計画はございません。</p>
	<p>インフラ整備、雇用創出、環境教育拠点の形成について、それぞれの具体的経緯と地域価値向上の根拠を提示。</p>	<p>インフラ整備については、災害時の非常用電源としての活用を想定しております。雇用創出については、施設の建設や保守の一部を地元の会社様へ優先的に依頼するほか、長期的な運営・管理業務における地元採用を推進いたします。環境教育拠点については、施設の公開や再生可能エネルギーを学ぶ見学プログラムの実施により、次世代の学習機会を創出するものです。これらは単なる施設建設に留まらず、地域の防災力向上や経済循環、教育環境の充実に寄与するものと考えております。</p>
	<p>転売・譲渡がない前提であることが市民合意の必須条件となるのではないか。</p>	<p>私共は本事業を単なる投資対象ではなく、根室の皆様と共に歩む長期プロジェクトと捉えております。そのため、他社への安易な譲渡や転売は一切検討しておりません。万が一の事態においても、地域社会の承諾なき譲渡は行わないことを改めてお約束いたします。</p>
	<p>20～30年後に「あって良かった」と思われる具体的内容の説明。現状の市民感情との乖離についての認識。</p>	<p>「地域共生」という言葉が、現状の皆様の不安と乖離しているのご指摘を重く受け止めております。私共の考える具体像とは、単なる施設の存続ではなく、事業を通じて「地域の課題解決」に寄与し続けることです。具体的には、災害時の電源供給拠点としての活用や、地元雇用の継続、そして環境保全への徹底した配慮を積み重ねることで、将来「この事業が地域を守る一助となった」と実感いただける姿を目指しています。</p>

第4回住民説明会について	資料内の事業用地地図に、土砂災害・津波災害警戒区域を重ねて表示してほしい。	第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。
	「地域経済への貢献」における「地域」の範囲の定義。北海道の広大さを踏まえた現実的な地域認識の確認。	住民説明会でもご回答させていただきましたとおり地域とは根室市を中心として考えております。
	パネル後退による景観維持の検討。防眩フェンスを「景観保護」と称する認識の妥当性と「景観保護」認識を問いたい。	貴重なご意見ありがとうございます。ご提案いただいた「パネルの10メートル後退」による景観対策については、技術的な検証と視覚的影響のシミュレーションを行い、第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。また、防眩フェンスの設置は、本来の景観を維持するものではなく、東側への反射光の抑制および施設自体の視認性低減を目的とした「影響緩和策」であると認識しております。
	O&Mは下請け任せではなく、四ツ谷エナジーの職員が根室に常駐して責任を持つべきではないか。	誠に恐縮ながら、現時点で四ツ谷エナジーの職員が根室市内に常駐する計画はございません。保守・点検業務については、地域に根差し迅速な駆け付けが可能な企業様へ委託する方針です。しかしながら、業務委託は責任の転嫁ではございません。最終的な管理・監督責任はすべて事業主に帰属いたします。
	隣接地の別事業者（ <span style="background-color: black; color: black;">          </span> ）の関連企業に業務委託するのは、環境アセス回避の疑念をを招くため避けるべきではないか。	第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。
	排出事業者として適正処理を行う旨の市との署名入り書類作成の検討状況の報告。	第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。
地域貢献策について	提案が的外れであり、地域の現状リサーチ不足。真摯に取り組む姿勢や実効性に疑問がある。	貴重なご意見ありがとうございます。私共の提案が地域の現状を十分に反映できておらず、実効性に欠けるとのご指摘を真摯に受け止めております。事業者として根室市様に相談のうえ検討し、より良い貢献策となるよう誠実に進めさせていただきます。
	年100万円のふるさと納税で可能な環境保全施策の具体的調査結果の提示。モニタリングとは何か。	寄付金の用途はご認識の通り根室市様が決定されますが、私共では野鳥や植生等の定点観測（モニタリング）を想定しております。金額面や実効性へのご指摘を真摯に受け止め、単なる寄付に留まらず、いかに実効性のある環境保全に寄与できるか、根室市様に相談のうえ検討してまいります。
	市内には既に優れた施設・自然（落石岬等）がある。安易な環境教育への関与は不要。別の提案を求める。	貴重なご意見ありがとうございます。環境教育プログラムの実施については、事業者として根室市様に相談のうえ検討し、より良い貢献策となるよう誠実に進めさせていただきます。
	生息数調査の有無、設置費用の見積もり、整備・管理の実施主体の明確化（貴社職員が委託か等）。	貴重なご意見ありがとうございます。獣害対策の実施についても、事業者として根室市様に相談のうえ検討し、より良い貢献策となるよう誠実に進めさせていただきます。
	強い反発がある中で事業を強行するつもりか。撤退、あるいは大幅な規模縮小の可能性はないか。	私共は自己中心的な進め方を意図しておらず、地域の懸念に対し可能な限り真摯に応えるべきと考えております。ご提案いただいたパネルのさらなる後退や配置の工夫についても、技術的な検証を継続し、第5回住民説明会時においてご説明させていただきます。撤退という選択肢ではなく、地域と共生できる形を模索し、対話を尽くしてまいります。

事業へのご意見について

一方的な説明会やクローズドな相談会ではなく、オープンな意見交換の場を設ける考えはあるか。

貴重なご意見ありがとうございます。私共の説明会や個人相談会は、根室市全域に広く周知させていただいており、どなた様でもご参加いただける開かれた場として運営しております。各回において十分な質疑応答の時間を設け、皆様との双方向の対話を大切にしております。今後も一方的な説明に終始することなく、皆様からの忌憚のないご意見を直接頂戴したいと考えております。より健全な意見交換の場となるよう、引き続き具体的にご意見をお寄せいただければ幸いです。